

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
220020	X-31-B-1-220020	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×	
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×	
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×	
経営管理論／企業と経済	内田 亨			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	専門	選択	1年	
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	選択	1年	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×			
<b>授業目的</b>								
<p>本講義では、経営管理の歴史的経緯を理解し、経営管理のさまざまな理論を理解する。  また、日本・世界経済、市場、環境問題等、経済状況や今日の問題と企業の関係性を習得する。  さらに現代企業の今日的な課題でもあるコーポレート・ガバナンス・CSR(企業の社会的責任)についても触れる。  こうしたことを学ぶことによって「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に当たることができる」人物像を目指す。</p>								
<b>各回の授業内容</b>								
<b>第1回</b> 【授】 イントロダクション(ガイダンス、企業とは、企業経営のしくみ) 【前・後】 企業経営の仕組みはとくに重要なので復習しておいてください。予習復習に4時間 <b>第2回</b> 【授】 経営管理論の概観 【前・後】 事前に配布資料を読み、復習は必ずしておいてください。予習復習に4時間 <b>第3回</b> 【授】 戦後の日本経済における経営管理 【前・後】 事前にアップロードする資料を見ておいてください。予習復習に4時間 <b>第4回</b> 【授】 グローバル経済における経営管理 【前・後】 キーワードを20ほどリストアップしておくので理解しておいてください。予習復習に4時間 <b>第5回</b> 【授】 古典的経営管理論 【前・後】 事前に配布資料を読み、復習は必ずしておいてください。予習復習に4時間 <b>第6回</b> 【授】 人間関係論 【前・後】 事前に配布資料を読み、復習は必ずしておいてください。予習復習に4時間 <b>第7回</b> 【授】 モチベーション論 【前・後】 事前に配布資料を読み、復習は必ずしておいてください。予習復習に4時間 <b>第8回</b> 【授】 リーダーシップ論 【前・後】 事前に配布資料を読み、復習は必ずしておいてください。予習復習に4時間				<b>第9回</b> 【授】 コーポレートガバナンス・CSR(企業の社会的責任) 【前・後】 コーポレートガバナンスの課題を理解しておいてください。予習復習に4時間 <b>第10回</b> 【授】 コーポレートガバナンス・CSR(企業の社会的責任)つづき 【前・後】 CSRの課題を理解しておいてください。予習復習に4時間 <b>第11回</b> 【授】 環境問題と経営管理 【前・後】 四大公害及び地球環境問題の成り立ちを理解しておいてください。予習復習に4時間 <b>第12回</b> 【授】 応用試験 【前・後】 事前に配布試験問題の答案を作成しておいてください。予習復習に4時間 <b>第13回</b> 【授】 IT・ナレッジエコノミーにおける経営管理 【前・後】 ITからナレッジ、その先にあるものを自分で考えてみてください。予習復習に4時間 <b>第14回</b> 【授】 経営管理の今日的な課題と研究 【前・後】 事前に配布資料を読み、復習は必ずしておいてください。予習復習に4時間 <b>第15回</b> 【授】 まとめ 【前・後】 今までの習ったことをレビューしてください。予習復習に4時間 <b>第16回</b>				
<b>成績評価方法</b>								
・ 応用試験(小論文 A4両面1枚、全て持ち込み不可、設問「授業で習った理論・キーワード・コンセプトを使用して組織体を分析せよ。図表を1つ以上書くこと」): 65%、授業への参加: 30%、期末レポート: 5% 第14回、第15回の授業中に応用試験の優秀答案を公表し、説明する。								
<b>教科書・参考書</b>								
なし								
<b>受講に当たっての留意事項</b>								
・ 応用試験は、小論文形式のため、普段から文章を書けるようにしておくこと。 ・ 授業への参加を評価するので指名する。指名されてこたえられない人は点数を付与されない。								
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施	
○	主力商品のプロダクトリーダーとして、社員のモチベーションを喚起させ、積極的に商品の拡販をしたり、リーダーシップを発揮して社内・外の組織を動かした。こうした経験によって実践的なモチベーション論、リーダーシップ論の事例を紹介する。						×	
<b>学習到達目標</b>								
・ 基本的知識習得を前提にして、企業が直面する経営管理の課題を発見し、解決策を考案できるようになる(応用試験65%、授業外レポート5%)。 ・ 日本・世界経済、市場、環境問題等、経済状況や今日の問題と企業の関係性を理解することができる(授業態度・授業への参加30%)。								
JABEE								

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習